



9月19日 八地申第1号

JR 東労組八王子地本第27回定期大会 発言に基づく申し入れ提出！

アフターコロナで旅行需要が急拡大しており、「モードチェンジ」「変革2027のスピードアップ」と環境が大きく変化しています。様々な職場の現実から建設的な意見が出され、施策に対して、「安全・健康・ゆとり」と働きがいある仕事と職場を創り出すことを満場一致で確認しました。会社施策に向き合い、安全を第一にこれからの職場を展望する発言が多く出されましたが、新たなジョブローテーション運用でのコミュニケーション不足、業務量に対する要員不足、みどりの窓口閉鎖による一極集中、離職者問題など、施策と職場現実の歪みが生まれているのも現実です。

JR 東日本は「安全」をトッププライオリティとしています。柔軟な働き方を実現しつつも、各系統の安全レベル向上を根底に技術・技能継承を前提とした良質な商品を提供し、サービス品質は低下させずに新たな価値の創出を生む鉄道事業を確立しなくてはなりません。

よって大会発言に基づいて以下の通り申し入れを行いました。

1. 「新たなジョブローテーションの運用」において、本部・本社間での議論経過と議事録確認を遵守し、管理者は社員のキャリアプランの実現に責任を持ち、社員の納得感をつくり出し、意思疎通が不十分なままの異動や担務変更をおこなわないこと。
2. 自ら描いたキャリアプランの実現のために、統括センター・営業統括センターでの組合員・社員の成長実現のため、積極的に担務変更に応じること。
3. 若年層の離職者増加に対する会社としての見解を示し、離職に歯止めをかけるための考え方を具体的に示すこと。
4. 発生した事故・事象の原因について、4M4E手法を用いた原因究明を行い、背後要因を含めて明らかにするとともに、現場の声を踏まえて現実的に実行できる対策を講じること。
5. 新JINJERになり、特に乗務員区では抽選による年休付与基準があったが、現在は付与基準があいまいとなり不公平感がある。要員を確保して希望通り年休が取得できるよう是正すること。
6. みどりの窓口は切符を売るだけでなく、変更や払い戻しなど多くの機能がありお客さまが必要とされている。窓口の削減により現存の窓口においてお客さまの徒列が増大し、サービス低下につながっている。徒列を解消できる販売体制をつくり出すこと。
業務の連携と融合により、直轄除草と樹木伐採が行われているが、要員が足りず計画通り行えていないので、硬直化した業務の垣根を取り払い、要員を確保したうえで日時場所など計画的に行うこと。また、用具について会社が責任をもって点検整備を行い労働災害防止に努めること。
7. 青梅～奥多摩間のワンマン運転について、運転士が、運転・ドア操作・放送案内・無人駅での車いす対応と役割が多くあることから、集中力を維持するために連続2往復の行路を見直すこと。
8. 旅行需要が急拡大により、中央線特急の一人乗務は車内改札業務が全車両終わらない現状があるため、車内改札要員を確保し料金逋脱防止を図ること。